

令和5年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

面城中学校区 校番 20 学校名 呉市立港町小学校

a 学校教育目標	① 心豊かに 自立する	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション>(学校の使命) 集団の中で確かな学力を身に付けさせ社会性を育成する <ビジョン>(将来の学校像) 「学ぶなら、通わせるなら、働くなら、港町小学校で」と思える学校を目指す
----------	----------------	----------------------	--

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	本校では、中学校区の「二川教育プラン」に則り、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成に重点を置いて取り組んできた。その結果、思考力・判断力・表現力については向上がみられたものの、基礎学力の定着には二極化がみられ、課題が残った。また、「自分で考え、自分から行動する」主体的な児童の育成により、自己肯定感を育む取組を行い、一定の成果が表れた。今年度も引き続き教育活動全般で主体性を育むことを基盤とし、基礎学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成に重点を置き、方策の工夫改善を重ねて取り組む。
------------------------------	--

育成を目指す資質・能力	○知識・技能 ○思考力・判断力・表現力 ○主体性
-------------	--------------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1 ②・3 年目)

重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	自己評価					
						9月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
*** 確かな学力の向上	① 主体的な学びの推進による学力の定着と向上	基礎・基本の徹底	・AI型デジタルドリルQubena(キュービナ)を活用し、基礎・基本の力を身に付けさせる。 ・漢字テストを継続的に行うことで、漢字を書く力を身に付けさせる。	国語科・算数科市販テスト「知識・技能」平均点	85%						
		思考力・判断力・表現力の向上	・ペアトークやグルーブトークなどで、自分の考えを根拠を挙げて説明する活動を取り入れる。 ・算数科において、全校で統一したノート指導を徹底し、自分の考えを図、式、言葉で表現できるようにする。	国語科・算数科市販テスト「思考力・判断力・表現力」平均点	80%						
** 豊かな心の育成	① 自他を大切にしてい共に高まり合う児童の育成	自他のよさに気づき、相手を思いやる態度の育成	・縦割り班活動を充実させることで、自信をもって行動し、他者を思いやる態度を育てる。 ・学級で良いところを見つける「ほめほめ葉っぱ」などの活動を行い、友達の良いところに気づくことができるようにする。	「自分には良いところがあると思いますか。」 児童アンケート	85%						
		目標をもち、主体的に行動できる児童の育成	・委員会で生活目標を決めて、取り組む活動を行うことで、目標を自分たちのものにして取り組むことができるようにする。 ・自己の役割を明確にし、めあてをしっかりと持たせて取り組ませる。	「生活目標を守る。」 児童アンケート 「夢や目標に向けて努力している。」 児童アンケート	80% 85%						
* 健やかな体の育成	社会で生き抜くための体力と生活習慣の向上	① 体力の向上	・外遊びの推奨と体育科の授業などの工夫を通して、「巧緻性・投球能力」を高める。 ・「みなとまち体操」を継続し、楽しみながら苦手な運動の強化を図る。	4月からソフトボール投げの記録がプラス2mの児童の割合	80%						
		生活リズムの確立	・規則正しい生活習慣を身に付けるために、学期に1回生活リズムばっちり週間を実施し、保護者に啓発する。	早寝・早起き・朝ご飯の項目	70%						
		① 「自分の命は自分で守る」防災教育の深化	・呉市防災教育のための手引きを参考に、各学級年に1回防災に関する授業を実施する。 ・災害ごとの避難訓練における発達段階に応じた、事前事後指導を徹底する。 ・土砂災害携帯マニュアルを活用した家庭と連携した防災教育の充実	自分が住む地域に起こりやすい災害について理解している児童の割合 災害時(大雨)に避難する場所や避難の仕方について理解している児童 児童アンケート	95%						
業務改善	・教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備	児童と向き合う時間の確保	・主任の業務を分担し、児童と向き合う時間を確保する。 ・「会議の精選」「資料配布の電子化」等効果があった取組を継続していく。	児童と向き合う時間を確保されていると感じている教職員の割合	80%						
		長時間勤務の削減		在校時間外勤務が45時間未満の教職員の割合	100%						

【k: 評価】
 A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
 C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60